

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370276

研究課題名(和文)シェイクスピア演劇におけるキルケ神話の表象に関する考察

研究課題名(英文)A Study of the Circe Myth in Shakespeare's Plays

研究代表者

廣田 篤彦(Hirota, Atsuhiko)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：40292718

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、古典古代以来、人を獣の姿に変える力を持つとされた魔女キルケとこれに関連する神話が、ウィリアム・シェイクスピアにより16-17世紀に英国で書かれた演劇作品において、どのように書き直されているかを考察した。具体的には、キルケ神話の発祥の地である地中海を舞台とする劇作品、ならびに、イングランドを舞台とする劇作品を考察の中心とし、それぞれにおけるキルケ表象の様相を検討した。

研究成果の概要(英文)：This study has explored how William Shakespeare reconfigured the myth of Circe (a witch with a power to transform men into beasts originating in Classical literature) in his dramatic works written in the 16th and 17th centuries. The focus of study was especially on the variations of Circe representations in the plays located in the Mediterranean (the origin of the myth) and in England.

研究分野：英文学

キーワード：英文学 シェイクスピア 神話 キルケ

1. 研究開始当初の背景

本研究は研究代表者が科学研究費補助金などにより、継続して行っている初期近代イングランドにおける国家像、国民像の表象に関する研究の延長線上に位置付けられる。研究代表者のこれまでの研究と関連する本研究開始当初の背景としては以下が挙げられる。

(1)平成23-25年度に科学研究費補助金を得て行った、シェイクスピア演劇における勢力均衡思想の表象に関する考察においては、16-17世紀における国際関係のシステムとの関係において劇中で描かれるイングランド像を検討したが、その中で、登場人物のアイデンティティに関わる台詞において神話に関する言及が多くなされていることに着目するに至った。中でも、魔女キルケは、古典古代において、人(特に男性)を獣の姿に変える力を持つとされており、この物語は他の神話(とりわけ、キルケの姪とされることもあった魔女メデアに関するもの)と関連付けられながら数多くの著者によって書き直されていた。その後、中世におけるキリスト教的解釈を経て、キルケ神話は、シェイクスピア以前の初期近代のテキストにおいて、イングランド人アイデンティティとの関係においてしばしば言及されるようになっていた。このことから、キルケのシェイクスピア劇における表象を分析することはイングランド国家像、国民像の考察にも有益であるとの着想を得た。

(2)さらに、上記研究期間に Shakespeare and Myth (シェイクスピアと神話) という統一テーマを掲げて開催された European Shakespeare Research Association (ESRA) の大会に参加し、セミナーの一つを運営するとともに、別のセミナーにペーパーを提出し、参加者と討論をする中で、それまで行ってきた研究のテーマである、シェイクスピア劇における自己/他者、中心/周縁の二項対立とその揺らぎといった問題を探求する際に、とりわけ初期近代イングランドにおいてイングランド人(男性)アイデンティティを脅かす他者の象徴として描かれることがあったキルケ像に焦点を当てて考察することが有用であることを認識するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、上記の背景に基づき、シェイクスピア演劇におけるキルケ神話の表象についての包括的な考察を目的とするものである。

具体的には、以下の2つの側面から、それぞれに属する劇テキストを分析することによって、シェイクスピアによるキルケ表象の特質を検討し、特に初期近代イングランドにおいて有していた意義を探求した。

(1)地中海世界におけるキルケ像

言うまでもなく、地中海はキルケ神話発祥

の地であり、古典古代以来、キルケの住む島はここにあるとされていた。また、初期近代の地中海は、キリスト教世界とイスラム教世界、西方と東方の接点であり、そこにおいて、イングランド人を含む国民的アイデンティティが容易に流動化しうることは、初期近代の多くのテキストにおいて指摘されている。

一方、シェイクスピアの演劇群において、地中海を舞台とするものは数多く、比較・対照という点でも格好の素材を提供している。本研究期間の主として初めの2年間は、こうした演劇の内、特に、『ヴェニスの商人』、『オセロー』といった、特に境界域としての性質を示す場所であるヴェニスに関わるものを中心に、『アントニーとクレオパトラ』や『トロイラスとクレシダ』のように、西と東、ヨーロッパとオリエントならびにアフリカ、といった二項対立とその脆弱性を示す劇を主たる対象として、これらにおけるキルケ表象が、登場人物のアイデンティティの揺らぎとどのように関係しているかを分析することを目的とした。

(2)歴史劇におけるキルケ像

中世のイングランド史を題材とするシェイクスピアの歴史劇においては、とくに百年戦争を戦った相手であるフランス(人) また、ブリテン島内の他者として描かれるウェールズ(人)との関係において、イングランド人アイデンティティの諸問題が提起されている。研究期間の後半、特に最終年度においては、この枠組みの中でキルケ的要素がどのように表象されているかを分析することを目的とする。

具体的には、『ヘンリー四世・第一部』と『ヘンリー八世』を主な研究対象とし、前者におけるイングランドとウェールズの境界地域ならびに、後者におけるフランスに関する場面のキルケ表象とイングランド人アイデンティティの関係を明らかにすることを目指す。

3. 研究の方法

本研究は三年計画で行われ、それぞれの年度において、以下の方法を行った。

平成26年度

地中海世界、その中でもヴェニスを主要な舞台とするシェイクスピアの劇作品におけるキルケ表象の分析を中心に研究を行った。

『ヴェニスの商人』におけるメデア神話ならびに黄金の羊毛伝説の書き換えについて、キルケ神話との関係において考察をした。あわせて、ヴェニスならびにキプロスに舞台がとられた『オセロー』におけるキルケ表象の考察を行った。その際、ヴェニス(ならびにキプロス)が、歴史的にさまざまに示してきた境界性とそこにおけるアイデンティティの問題に配慮した。

あわせて、ブリテンとキルケ神話の関係に

ついて、地中海世界と比較をしながら検討を開始し、特に『ヘンリー四世・第一部』を取り扱った。

平成 27 年度

前年度に引き続き、地中海世界を舞台とする劇について考察をしたが、主として、上記に作品と、ヴェニス以外の地域を舞台とする劇の比較を行った。

平成 28 年度

イングランドを舞台とする歴史劇におけるキルケ表象について考察をした。『ヘンリー八世』に焦点を当て、フランスとの関係で問題となるイングランド人アイデンティティの脆弱性とキルケを思わせる魔術への言及の関係を検討した。

さらに、『ヘンリー四世・第一部』の主要登場人物であるファールスタフを主人公とし、イングランドのウィンザーを舞台とする喜劇『ウィンザーの陽気な女房たち』を対象とし、イングランド内におけるキルケ表象の可能性を探求した。

あわせて、神話への言及という観点から、これまでの研究を基に『ハムレット』におけるトロイ伝説への言及についての考察を行った。

4. 研究成果

本研究による成果は主として以下の三種類に分類される。

- (1)地中海世界を舞台とする劇作品におけるキルケ神話並びに関連するメデア神話の書き直しの分析。
- (2)歴史劇におけるキルケ神話の表象の分析。
- (3)『ハムレット』における古典古代の神話の取り扱いに関する考察。

(1)本研究分野の主たる研究成果の一つが、『ヴェニスの商人』におけるメデア神話の表象に関するものである。この研究に関しては、下記雑誌論文の(2)において、メデア神話の初期近代英文学における表象の諸相についての研究書を書評したことに始まる。ここで研究代表者はこの神話とキルケ神話との関係について検討する機会を与えられ、ここで得られた知見を、下記学会発表(1)、(4)として口頭発表することとなった。

一方、同じく地中海を舞台とするシェイクスピアの劇作品の分析として、学会発表(2)、(3)において『オセロー』に関する研究成果を発表し、これらの成果の一部を、『ヴェニスの商人』についての研究に活用しながら、著書(2)の第4章となる、'Venetian Jasons, parti-coloured lambs and a tainted wether: ovine tropes and the Golden Fleece in *The Merchant of Venice*' として完成し、2017年に出版する予定となっている。

ここでは、この劇において、バッサーニオがメデアの夫となるジェイソンに、ポーシャ

の金髪が、ジェイソンがメデアの助けによって獲得することになる黄金の羊毛に、それぞれ例えられることから、この劇におけるメデア神話の重要性を指摘し、あわせて、シャイロックの娘ジェシカとその駆け落ちをした夫グラティアーノの対話におけるメデアへの言及に着目しつつ、初期近代英国において、黄金の羊毛が有していた物質的、文化的意味を考察しながら、メデア神話がこの劇の重要なサブテキストとなっていることを論じている。

一連の『ヴェニスの商人』に関するメデア、キルケ両神話の関連についての研究を通じて、研究代表者は、シェイクスピア演劇において存在する複数のサブテキストが互いに関連しながら、重層的に劇に意味を与えていることを確認し、新たな研究の方向を見出すに至っている。

一方、『オセロー』に関する研究においては、アイデンティティが容易に変換しうると当時の人々に認識されていた、キリスト教世界とイスラム教世界の境界域である初期近代の(東)地中海において、人の獣への変容をテーマとするキルケ神話がどのような意味を持つかについて、『アントニーとクレオパトラ』などと比較しながら検討を行い、キルケ的な魔術、魔女との関連が、オセローとデズデモナの両方に見られること、これが、前者の民族的、宗教的アイデンティティの曖昧さや、文化的境界域に存在するヴェニスという都市の特性と密接に結びついていることを、学会発表(2)、(3)の中で指摘した。

(2)歴史劇におけるキルケ神話の表象についての主な研究成果となるのが、下記学会発表(4)、(7)と、後者を基として大幅な加筆を行った雑誌論文(3)である。また、大規模な国際共同企画として出版された図書(1)の研究代表者担当部分にも、この分野の研究成果が反映されている。

学会発表(4)においては、『ヘンリー四世・第一部』の前半部分においてウェールズ人登場人物が魔術と関連付けられていることから、そのキルケとの関係を探求し、イングランドとウェールズの間を横たわる、明確な境界線を持たない領域が、こうしたキルケ的登場人物の活動域となっていること、そこでは、イングランド人登場人物のイングランド人としてのアイデンティティが危機にさらされていることをまず指摘した。次いで、この劇のクライマックスで、ハル王子がのちの英雄的なイングランド王として登場する下地となる戦いが行われるシュルーズベリーもまた、この地域に存在することから、この戦いにおけるハルとファールスタフの行動を、ウェールズの場面と比較し、そこに見られる共通の要素を指摘している。

さらに、学会発表(6)においては、『ヘン

リー四世・第一部』の主要登場人物であるフォールスタフが主人公となる『ウィンザーの陽気な女房たち』を分析対象の一つに選び、ラテン語の使用と人文主義という観点から、この劇についての考察を行っている。

一方、学会発表(7)と論文(3)は、『ヘンリー八世』を研究対象としている。ここで語られる、フランスのファッションにかぶれた宮廷人への批判に、フランスの魔術との言及が見られ、さらに、男性性の喪失や、馬との比較といった、キルケの魔術を彷彿とさせる言葉遣いがされていることを指摘した。この劇においては、魔術に関する言及が複数見られ、これらが、共作者とされるシェイクスピア、フレッチャーそれぞれが書いたと推定される場面に見られることから、この劇における魔術に関するイメージと共作の関係へと議論を発展させている。さらに、この研究は、フレッチャーに焦点を当てた、平成 29 年度以降の研究テーマへと発展している。

(3)平成 28 年(2016 年)に開催された、第 9 回 World Shakespeare Congress において、『ハムレット』に関するセミナーを行うよう、大会主催者に求められたことをきっかけとして、『ハムレット』における神話やトロイ伝説への言及について、上記二分野の研究におけるキルケ神話の表象の考察を基に、検討をした。この成果を学会発表(8)のセミナーを通じて提示するとともに、同(9)ならびに雑誌論文(1)として発表している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

(1) Atsuhiko Hirota, Two Triangles for Denmark: International Relations in *Hamlet*
Shakespeare Studies 53 (2015): 26-42

(2) Atsuhiko Hirota, Book Review: Katherine Heavey, *The Early Modern Medea*
Cahiers Elisabethains 89 (2016): 149-51

(3) Atsuhiko Hirota, A Devil Monk's Prophecy and the Archbishop's Encomium: Collaborative Representations of Witchcraft in *Henry VIII*
POETICA 87 (2017): 79-94

[学会発表](計 9 件)

(1) Atsuhiko Hirota, Venetian Jasons, Parti-Coloured Lambs and a Tainted Wether: Ovine Tropes and the Golden Fleece Myth in *The Merchant of Venice*
IRCL Conference, 2014 年 4 月 17 日, University Paul-Valery, Montpellier

(2) Atsuhiko Hirota, Venetian Enchantresses and Egyptian Sorcery: Transformation of the Circean Myth in *Othello*
Shakespeare 450 Conference, 2014 年 4 月 21 日 26 日, Paris

(3) Atsuhiko Hirota, Venice, Barbary and Cyprus: Space and Myth in *Othello*
Space of Performance and Performance of Space in Early Modern English Literature, 2014 年 6 月 27 日 28 日, Sogang University, Seoul

(4) Atsuhiko Hirota, The Myth of Circe and Liminal Space: The Marches in *Henry IV, Part 1*
The International Shakespeare Conference, 2014 年 8 月 3 日 8 日, The Shakespeare Institute, Stratford-upon-Avon

(5) Atsuhiko Hirota, Introduction of Bibliography and Palaeography Using the Meisei Shakespeare Database
The Shakespeare Association of America, 2015 年 4 月 1 日 5 日, Vancouver

(6) 廣田篤彦, イングランド人と文芸共和国モア、シドニー、ミルトン、シェイクスピア(?)
京都大学文学研究科公開シンポジウム、2015 年 12 月 12 日、京都大学

(7) 廣田篤彦, 共作劇として見た *Henry VIII* 日本英文学会第 88 回大会 シンポジウム「演劇制作の現場から シェイクスピアと初期近代演劇の「共作」」、2016 年 5 月 28 日 29 日、京都大学

(8) Atsuhiko Hirota, Seminar: Hamlet 5.1 The 9th World Shakespeare Congress, 2016 年 7 月 30 日 8 月 6 日, Stratford-upon-Avon & London

(9) Atsuhiko Hirota, Hamlet's 'Mobled Queen': The Second Folio and the Memories of Texts
第 55 回日本シェイクスピア学会 セミナー The Second Folio Revisited, 2016 年 10 月 8 日 9 日、慶応義塾大学

[図書](計 2 件)

(1) Atsuhiko Hirota, History and Historiography
Bruce Smith, ed., *The Cambridge Guide to the Worlds of Shakespeare* (Cambridge: Cambridge UP, 2016), pp.579-86

(2) Atsuhiko Hirota, Venetian Jasons,

parti-coloured lambs and a tainted wether:
ovine tropes and the Golden Fleece in *The
Merchant of Venice*

Charlotte Coffin, Agnes Lafont, and Janice
Valls-Russel, eds. *Interweaving Myths in
Shakespeare and His Contemporaries:
'Ariadne's Broken Wool'* (Manchester:
Manchester UP, 2017) 印刷中

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者 廣田 篤彦
(HIROTA ATSUHIKO)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40292718

(2)研究分担者 なし
()

研究者番号：

(3)連携研究者 なし
()

研究者番号：

(4)研究協力者 なし
()